

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岩手県立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	イワテケンリツダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F103210100748
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	岩手県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	科目名	キャリア地域学習
	学部・研究科等名	基盤教育科目(学部共通)
	担当教職員名・役職	高瀬 和実 ・ 高等教育推進センター高等教育企画部 准教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	6
	受入企業等名	(株)岩手ホテル&リゾート、(株)東北システムズサポート、(株)菅文、(株)ツガワ、二戸市、一戸町
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	本学が立地している地域におけるキャリア形成を意識することともに、それぞれの事業所での具体的な就業体験を組み合わせる。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位

	2-5.上記回答内容に関する詳細	学部1年次～4年次を対象とするが、シラバスには1、2年次の履修を推奨する旨を記載している。平成2年度は新設科目につき全員が1年次生。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップ実施前、実施中、実施後のいずれであっても連絡・相談ができる体制を整えている。	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	就業力の主観・客観評価、就業体験ガイダンス、ビジネスマナー演習、評価結果を踏まえた課題確認・目標設定、地方での就労の価値と意味などを実施。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	就業体験の振り返りの共有・成果報告、就業力の主観・客観評価、地域の中小企業団体幹部からの講義などを実施。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	学生向けには、インターンシップ実施前、実施中、実施後のいずれであっても連絡・相談ができる「インターンシップなんでも相談ダイヤル、相談メール」を開設し、都度対応している。学内・企業へは「インターンシップ緊急連絡網」を整備し対応。また、適宜実施中に教職員が視察に出向き、学生の状況やインターンシップに関する意見交換等を行っている。	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	
4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている	

要素④		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	同じ評価項目について、主観的な評価をルーブリック形式で行うとともに客観的なテストでも測定する。それぞれインターンシップの前後で行うことで、主観と客観の差異、前後の差異を学生と教員が一緒に確認する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	新型コロナの影響で2日間になった学生を事前事後で個別にフォローした。
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	2事業所で実施、1事業所につき2日から3日で実施した。
5-2.「4.その他」の実施期間の内容		
	5-3.上記回答内容に関する詳細	令和2年度については、新型コロナの影響により受け入れ先により期間は柔軟に対応せざるをえない状況であった。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	企業等は学生の目標設定も確認したうえで、事前に共有している評価表での定量評価、定性評価を行なっている。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://aaadv.iwate-pu.ac.jp/aa_web/syllabus/se0020.aspx?me=EU&amp;opi=se0010">https://aaadv.iwate-pu.ac.jp/aa_web/syllabus/se0020.aspx?me=EU&amp;opi=se0010</a>
問い合わせ先	大学等名	岩手県立大学
	担当部署名	高等教育推進センター 高等教育企画部
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	高瀬 和実
	電話番号	019-694-2788
	メールアドレス	<a href="mailto:takase@ipu-office.iwate-pu.ac.jp">takase@ipu-office.iwate-pu.ac.jp</a>